

授業科目名： 物理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 田中達也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 中学校理科を展開する上で必要な物理領域における基本的な知識を習得する。 (2) 学習指導要領で示された学習内容の背景となる物理領域における基本的な知識を習得する。			
授業の概要			
本授業の目的は、中学校理科物理領域における基本的な法則や概念を学ぶことを通して、自然現象を理解するための考え方を習得することである。また、それぞれの法則の全体系の中で位置づけや相互関係を把握することによって、物理をより深く理解することを目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：講義概要、受講時の心得、成績評価について 学習指導要領エネルギー領域の概観：内容の系統性及び特徴的な見方を理解する			
第2回：エネルギーの捉え方（音の伝わり方と速さ）：音の伝わり方に関する知識を活用し、音の速さを測定する			
第3回：エネルギーの捉え方（音の大小と高低、ドップラー効果）：音の振幅や振動数の考え方を学ぶとともに、日常生活でみられるドップラー効果について理解する			
第4回：エネルギーの捉え方（光の屈折・反射・干渉）：実験を行い、光の現象について理解する			
第5回：エネルギーの捉え方（力の合成と分解）：ばねばかりを用いた実験を行い、力の合成・分解について理解する			
第6回：エネルギーの捉え方（物体の運動）：運動の規則性について実験を通して学ぶ			
第7回：エネルギーの捉え方（慣性の法則）：慣性の法則を実証する実験を考察し、実践する			
第8回：エネルギーの捉え方（電流・電圧・抵抗）：オームの法則について学ぶ			
第9回：エネルギーの変換と保存（電気とそのエネルギー）：電力と熱量、電力量について学ぶ			
第10回：エネルギーの変換と保存（静電気と電流）：バンデグラフや放電管を用いた実験を行い、静電気と電流の特性を理解する			
第11回：エネルギーの変換と保存（電流と磁界）：電磁気学の基本的な法則について学ぶ			
第12回：エネルギーの変換と保存（電磁誘導）：レンツの法則に基づく実験を行い、誘導電流の流れる方向について理解する			
第13回：エネルギーの変換と保存（仕事とエネルギー）：実験を通して仕事量について理解する			

第14回：エネルギーの変換と保存（エネルギーの変換と保存）：エネルギーの変換や保存に関する実験を行い、理解する 第15回：エネルギー資源の有効活用（エネルギーと物質）：日常生活におけるエネルギー資源とその活用について学ぶ 定期試験
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省） 未来にひろがるサイエンス1～3（啓林館）
学生に対する評価 定期試験（70％）、授業で課すレポート（30％）

授業科目名： 生活と物理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中達也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標 （１） 日常の自然現象に関わる様々な物理理論を統合的に理解し、自然現象を説明できる。 （２） 自分の知識や解釈を他者に論理的に説明し、議論を通じてより妥当な考えや解釈を集団で議論し、納得解を創造する。			
授業の概要 本授業の目的は、生活の中にある様々な自然現象を物理学の法則を用いて自ら解釈したり、説明したりする科学的リテラシーの習得を目指すとともに、児童・生徒に科学的思考力・表現力の育成及びアーギュメント構成能力を育成するための指導について学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：講義概要、受講時の心得、成績評価について 科学的に捉えるとは：小学校1年生児童・中学校1年生の日常生活に疑問の事例 第2回：理科教育の目標と科学リテラシー：理科教育の目標とPISA調査・TIMSS調査の概観からこれからの時代に求められる科学リテラシーについて理解する。 第3回：科学リテラシーとしてのアーギュメント構成能力：アーギュメント構成能力の重要性について理解する 第4回：アーギュメント指導の実際：小学校・中学校現場における実践からアーギュメント指導の実際について学ぶ 第5回：アーギュメントの記述演習：ふりこの実験を通してデータを科学的に解釈し、説明する 第6回：アーギュメント自己評価・相互評価演習：自身が構成したアーギュメントについて、自己評価と相互評価を行い、アーギュメント構成要素への理解を深める 第7回：アーギュメントの評価演習：児童・生徒が実際に構成したアーギュメントの評価を行う 第8回：アーギュメント構成能力とアーギュメント自己評価能力：自身の構成したアーギュメントを自己評価と、児童のアーギュメント自己評価の実態からアーギュメントにおける自己評価能力向上について考える 第9回：自然現象を科学的に説明する（弾性力・摩擦力） 第10回：自然現象を科学的に説明する（虹の発生・雷雲との距離） 第11回：アーギュメントの教授方略：アーギュメントを実際に授業に導入する事例研究を通して、教授方略について学ぶ			

第12回：アーギュメントを用いた授業計画（1）中学校エネルギー領域について 第13回：アーギュメントを用いた授業計画（2）第12回の授業計画の再考 第14回：アーギュメントを用いた模擬授業 第15回：まとめ 定期試験
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 OECD 生徒の学習到達度調査～ 2015 年調査国際結果の要約～（国立教育政策研究所） TIMSS2019算数・数学教育／理科教育の国際比較（国立教育政策研究所） わくわく理科3～6（啓林館）、未来ひろがるサイエンス1～3（啓林館）
学生に対する評価 定期試験（70％）、授業で課すレポート（30％）

授業科目名： 物理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中達也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標 物理学の知識及び考え方の深化及び、関連の具体的問題を解き、教授する力を身に付ける。			
授業の概要 本授業では、物理学の知識と、物理的な考え方を深めることが目的となる。自然現象で現れる自然科学、生活の中で使われている工学や物理学の法則を理解し、物理の知識を活かしたものにする。中学の物理と数学の知識で理解できるように工夫し、物理学の面白さを実感することが目的となる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：講義概要、受講時の心得、成績評価について 第2回：力学について（1）変位と速度と加速度について 第3回：力学について（2）力のつり合いについて 第4回：力学について（3）運動方程式について 第5回：力学について（4）仕事とエネルギーについて 第6回：力学について（5）万有引力について 第7回：力学について（6）単振動について 第8回：電磁気学について（1）静電気について 第9回：電磁気学について（2）電場について 第10回：電磁気学について（3）電位について 第11回：電磁気学について（4）電流について 第12回：電磁気学について（5）コンデンサーについて 第13回：電磁気学について（6）磁場について 第14回：電磁気学について（7）電磁誘導について 第15回：電磁気学について（8）交流について 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）、知っておきたい物理の疑問			

55（日本物理学会）
学生に対する評価 定期試験（70％）、授業で課すレポート（30％）

定期試験
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）、 未来ひろがるサイエンス1～3（啓林館）
学生に対する評価 定期試験（40％）、レポート提出（60％）

授業科目名： 化学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉浦弘隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標 中学校理科の粒子分野を指導できるための化学的な知識を身につける。 本授業の目標は以下のとおりとする。 （１）身の回りの物質について理解することができる。 （２）化学変化と原子分子について理解することができる。 （３）化学変化とイオンについて理解することができる。 （４）生活にかかわる化学物質の利用について理解することができる。			
授業の概要 中学校理科の粒子分野においては、身の回りの物質についての理解を深め、物質が原子や分子で成り立っていることを理解し、また、化学反応について学習指導を行えるようにする。本授業では、これらの学習内容に必要な化学の基本概念について学ぶ。			
授業計画 第1回：科学と化学（ガイダンス） 第2回：化合物と混合物 第3回：物質の三態 第4回：気体の性質と発生 第5回：原子と分子、電子 第6回：結合とイオン 第7回：化学変化と質量の保存 第8回：酸と塩基 第9回：中和と塩 第10回：酸化と還元 第11回：有機物と無機物 第12回：炭素化合物の利用 第13回：高分子化合物の活用 第14回：機能性化合物の活用 第15回：中学校理科と化学分野（まとめ） 定期試験			

テキスト

三訂版 フォトサイエンス化学図録（数研出版）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）

学生に対する評価

定期試験（60％）、小テスト（20％）、小レポート（20％）

授業科目名： 生活と化学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉浦弘隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では生活基盤の化学を様々なテーマを通して学ぶ。 本授業の到達目標は以下の通りである。 （１） 生活が科学技術に支えられていることを理解することができる。 （２） 生活を支える科学技術に興味を持ち、レポートにまとめることができる。			
授業の概要 本授業では私たちの生活に溶け込む様々な科学技術を紹介し、化学の概念や基礎理論の理解を深める。			
授業計画 第１回：化学の歴史（錬金術と化学） 第２回：紙の化学 第３回：水の化学 第４回：インクの化学 第５回：光の化学 第６回：医療技術の化学 第７回：歴史学と化学（１）年代測定 第８回：歴史学と化学（２）成分分析と産地推定 第９回：歴史学と化学（３）贋作と化学 第１０回：食べ物の化学 第１１回：お酒の化学 第１２回：においの化学 第１３回：病気の化学 第１４回：公害の化学 第１５回：環境と化学 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業中に適時資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

三訂版 フォトサイエンス化学図録（数研出版）

考古学調査ハンドブック 2 必携 考古資料の自然化学調査法（齋藤努 監修 ニューサイエンス社）

学生に対する評価

レポート試験（70％）、小テスト（30％）

授業科目名： 化学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉浦弘隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 化学		
授業のテーマ及び到達目標 本授業は化学概論を基礎として、化学分野において用いられる法則について理解する。 本授業の目標は以下のとおりである。 （１） 物質の構造について原子・分子の視点から説明することができる。 （２） 物質の変化について様々な法則から説明することができる。 （３） 自然に存在する有機化合物について理解を深め、説明することができる。			
授業の概要 この授業では中学校理科の粒子分野の発展的な内容につながる、物質の構造や、化学変化に関する法則、自然に存在する有機物について説明する。			
授業計画 第1回：近代化学の発展と元素の概念 第2回：原子の構造と電子配置 第3回：放射性同位体と放射線 第4回：イオン結合と共有結合 第5回：物質の状態と理想気体の状態方程式 第6回：反応速度 第7回：化学変化とエネルギー 第8回：化学平衡 第9回：酸・塩基反応 第10回：酸化還元反応 第11回：有機化合物と無機化合物 第12回：飽和炭素化合物の化学 第13回：不飽和炭素化合物の化学 第14回：芳香族化合物 第15回：天然物の化学 定期試験			
テキスト 一般化学（四訂版）（長島弘三・富田功共著、裳華房）			

参考書・参考資料等
三訂版 フォトサイエンス化学図録（数研出版）
中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）
学生に対する評価
定期試験（50％）、小テスト（30％）、小レポート（20％）

授業科目名： 化学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 杉浦弘隆
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校理科の粒子分野を指導できるための化学実験における知識・技能を身につける。 本授業の目標は以下のとおりとする。 （１） 実験を安全に行うために、実験器具、装置を正しく操作することができる。 （２） 中学校理科の化学の実験を通して、基本的な化学の知識を理解することができる。 （３） 実験結果をデータにまとめ、論理的な思考をおこない、レポートにまとめることができる。			
授業の概要 中学校理科の粒子分野においては、身の回りの物質についての理解を深め、物質が原子や分子で成り立っていることを理解し、また、化学反応について学習する。本授業では、化学概論で身につけた知識をもとに、中学校理科の化学実験を行い、実験指導における基礎的な技能を学ぶ。			
授業計画 第1回：化学実験における安全管理とレポートの書き方 第2回：液体の希釈と濃度の計算(コンピューター実習) 第3回：ろ過と抽出 第4回：蒸留 第5回：析出(再結晶) 第6回：燃焼と気体の置換 第7回：質量保存の法則(炭酸の発生) 第8回：化学カイロの作成 第9回：炭酸水素ナトリウムの熱分解 第10回：水の電気分解 第11回：中和滴定 第12回：食品添加物の中和滴定 第13回：化学電池と果物電池 第14回：石鹼をつくる 第15回：中学校理科のための実験プリントの作成			

定期試験は実施しない。
テキスト 授業中に適時資料を配布する。
参考書・参考資料等 三訂版 フォトサイエンス化学図録(数研出版) 中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）
学生に対する評価 レポート提出（80％）、実験ノート（20％）

授業科目名： 生物学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深川 幹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、中等教育の生物分野を理解し指導するために必要な知識の習得を目指す。 本授業の到達目標は以下の通りである。 （１）生物のもつ共通性と多様性についての概要を理解できる。 （２）生物の構造や恒常性に関わる事象を理解し、説明できる。 （３）生物多様性を保全する意義を理解し、説明することができる。			
授業の概要 中等教育の生物分野を理解し指導するために必要な基礎知識を習得するため、生物を構成する細胞や器官などの構造、個体を維持するための恒常性、生物の多様性などについて解説する。また、各分野の中等教育の生物の位置付けや、単元間の繋がりへの理解を深めることを目指す。			
授業計画 第１回：生物の共通性と多様性 第２回：細胞の構造とはたらき 第３回：生物の分類 第４回：植物のからだの構造と機能 第５回：動物のからだの構造と機能 第６回：遺伝情報とその発現 第７回：同化と異化 第８回：体内環境の維持 第９回：免疫 第１０回：刺激の受容と反応 第１１回：生物の多様性と進化 第１２回：生態系 第１３回：生物と環境 第１４回：自然環境の保全 第１５回：まとめ 定期試験			
テキスト			

三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録（鈴木孝仁監修・数研出版編集部編集、数研出版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（５０％）、コメントカード（２０％）、授業内での小テスト（３０％）

授業科目名： 生物と環境	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深川 幹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、環境についての基礎から生物の環境への適応、生物間の相互作用など広く生態系について学ぶ。 学習を通して、人間活動が生態系へと与える影響について理解し、ヒトと自然の持続的な関わり方について考察できるようになることを目指す。本授業の到達目標は以下の通りである。 （１）生物の環境への適応について理解することができる。 （２）生物多様性について理解することができる。 （３）人間社会と自然環境の関わりについて理解することができる。			
授業の概要 生物と環境の関わりについての基礎的な知識を習得するため、生物の環境への適応、生態系のしくみなどについて講義を行う。また、ヒトと自然の持続可能な関わり方について、一人ひとりが自ら考える姿勢を持つことを目的として、実際の事例を取り上げながら議論する。			
授業計画 第1回：無機的環境と生物的環境 第2回：植物の環境への応答 第3回：植物の光刺激に対する応答：教科書実験の計画・実践 第4回：植物の適応戦略 第5回：動物の環境への応答 第6回：動物の刺激の受容と反応：教科書実験の計画・実践 第7回：動物の適応戦略 第8回：同種個体群内の相互作用 第9回：異種個体群間の相互作用 第10回：生態系の構造と機能 第11回：生物多様性 第12回：ヒトと環境 第13回：人間活動による環境の変化についての事例検討 第14回：環境保全の手法についての事例検討 第15回：まとめ、ヒトと自然の関わりについて			

定期試験は実施しない。
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 生態学入門（第2版）（日本生態学会編、東京化学同人）
学生に対する評価 発表会の発表内容（40％）、発表の相互評価（20％）、授業内での小レポート（40％）

授業科目名： 生物学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松元英理子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 本授業は生命科学を中心に知識と理解を深め、中等教育の生物分野の指導に繋げることを目的とする。到達目標は具体的に以下の通りである。 （１）生物学の以下の分野（細胞の構造と機能、代謝、遺伝子発現、細胞分裂、生殖、免疫）について、基礎的事項を理解し説明できる。 （２）遺伝の仕組みを理解し、論理的に考察することができる。 （３）現代社会と生命科学の関わりに興味を持ち、学修を深めることができる。			
授業の概要 生物の基本単位である細胞について、構造、遺伝子発現や代謝などの反応、細胞分裂の仕組みや細胞の死について学んだのち、ヒトという生物について遺伝や免疫の仕組みを理解する。更に、現代社会における生命科学の活用について学び、考察する。			
授業計画 第1回：生物の共通性・多様性・階層性 第2回：細胞の構造と機能① 細胞を構成する物質 第3回：細胞の構造と機能② 生体膜、細胞小器官 第4回：遺伝子の発現① 核酸の構造、転写 第5回：遺伝子の発現② 翻訳、遺伝子・ゲノム 第6回：生体とエネルギー① 酵素のはたらき 第7回：生体とエネルギー② 異化 第8回：中間試験、細胞周期① 細胞周期の全体像 第9回：細胞周期② 複製、体細胞分裂 第10回：生殖・発生 第11回：細胞の生と死 第12回：遺伝のしくみ 第13回：ヒトの遺伝 第14回：ヒトと病原体～免疫 第15回：現代社会の生命科学技術 定期試験			

テキスト
大学で学ぶ 身近な生物学（吉村成弘著、羊土社）
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布し、参考書を紹介する。
学生に対する評価
定期試験（３０％）、中間試験（３０％）、課題・レポート（４０％）

授業科目名： 生物学実験		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 松元英理子
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・生物学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 (１) 実験の基礎知識と原理を理解し、説明できる。 (２) 生物学の実験に必要な基本的技術を身につける。 (３) 実験結果から論理的に考察できる。 (４) 実験結果・考察を、分かりやすく人に伝えられる。				
授業の概要 動植物の組織・細胞の形態観察、刺激の受容と反応、光合成や酵素反応などの中等教育生物分野の指導に必要な実験に加え、現代社会に必要な遺伝子リテラシーを身につける実験を行う。これらの実験を通して、コンピュータを活用したデータ解析やプレゼンテーションのスキルも身につける。				
授業計画 第1回：ガイダンス レポートの書き方、データ処理の方法 第2回：顕微鏡の使い方、マイクロメーターの使い方 第3回：植物組織の観察 第4回：細胞分裂の観察 第5回：ヒトの組織・細胞の観察 第6回：刺激の受容と反応 第7回：運動負荷の人体への影響 第8回：光合成の実験 第9回：酵素のはたらき 第10回：遺伝子実験の基礎、マイクロピペットの使い方 第11回：遺伝子の解析① DNA抽出 第12回：遺伝子の解析② PCR 第13回：遺伝子の解析③ 電気泳動 第14回：実験のまとめ、実験結果のプレゼンテーション準備 第15回：プレゼンテーション 定期試験 テキスト				

授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 基礎生物学実験（大阪大学理学研究科生物科学専攻編、培風館）
学生に対する評価 定期試験（４０％）、実験レポート（５０％）、プレゼンテーション（１０％）

授業科目名： 野外生物学実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 深川 幹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 野外での観察を安全に行うための知識を身に着け、採集や標本作成を通して身近な自然環境での生物の多様性を学ぶことを目的とする。 本授業の到達目標は以下の通りである。 （１）野外での活動を安全に留意しながら行うことができる。 （２）生物の標本制作法を身につけることができる。 （３）生物を識別し、種同定を行うことができる。			
授業の概要 野外で安全に生物観察を行うために必要な知識を習得するため、観察手法や野外調査の安全管理について学ぶ。その後、実際にフィールドでの観察、採集を行い、標本やスケッチを作成することにより、生物の多様な形態について理解を深める。観察や採集、標本作製やスケッチ等には、ICT機器を活用する。			
授業計画 第1回：野外での観察手法 第2回：野外観察を安全で学びのある活動にするために 第3回：昆虫採集①樹上の昆虫 第4回：昆虫採集②地上の昆虫 第5回：昆虫の種同定 第6回：昆虫標本の作成 第7回：植物採集①単子葉植物 第8回：植物採集②双子葉植物 第9回：植物の種同定 第10回：植物標本の作成 第11回：水辺の生物の採集①川辺の生物 第12回：水辺の生物の採集②海辺の生物 第13回：水辺の生物の種同定 第14回：水辺の生物の観察とスケッチ 第15回：観察した生物の報告、まとめ			

定期試験は実施しない。
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 原色牧野日本植物図鑑〈1〉～〈3〉（コンパクト版）（牧野 富太郎著、北隆館）、日本の昆虫1400(1)(2)(ポケット図鑑）（槐 真史編著、文一総合出版）
学生に対する評価 作成した標本（40％）、発表会の発表内容（40％）、小レポート（20％）

授業科目名： 地学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森永速男
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標 （１）中学校で取り扱う地学現象を説明する概念やモデルについて包括的に学ぶ。 （２）概念やモデルそのものの理解のみならず、それらの成立の背景と過程も含めて学ぶ。			
授業の概要 中学校学習指導要領の内容をふまえ、地学現象を説明する概念やモデルについて包括的に学習する。観測データや実験から得られたデータの解釈等を通して、成立の背景や過程についても学びを深める。地学が扱う現象は地球環境問題や自然災害と密接であり、自然と共存した持続可能な社会の構築・維持にとっての地学の重要性を理解する。			
授業計画 第1回：宇宙のはじまりと地球の誕生 第2回：地球とはどんな天体か 第3回：火山噴火はなぜ起こるのか 第4回：地震・津波はなぜ起こるのか 第5回：海底地形と火山・地震の分布 第6回：大陸移動と海洋底拡大：プレートテクトニクス 第7回：岩石や地層が語る地球の環境変化 第8回：化石から読み解く生物進化 第9回：風化浸食作用と景観形成 第10回：大気中の水の変化と現象 第11回：大気の動きと気象 第12回：地球の気候と環境 第13回：地球と天体の運動 第14回：太陽系と銀河系 第15回：地球の自然現象からの恩恵 定期試験			
テキスト 講義中に紹介するとともに講義資料を配付する。			
参考書・参考資料等			

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）、災害多発時代の今だからこそ 地球の恵みに感謝!!-素晴らしい地球のシステム-[増補改訂第2版]（森永速男・片尾浩・山本鋼志著、ふくろう出版）

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

授業科目名： 地球と環境	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中達也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 実験や観察から、自然現象（災害）の発生メカニズムを理解することができる。			
(2) 児童・生徒の災害対応能力の向上を目指した地球領域の指導方法について理解する。			
授業の概要			
本授業の目的は、理科教育（地球領域）を防災教育の視点からデザインする方法について、実践的に習得することである。具体的には防災教育における災害発生メカニズムへの理解の深化や防災・減災の技能の向上に、理科教育、特に地球領域の学習内容の充実からアプローチするとともに、児童・生徒に科学的思考力・表現力を育成するための指導について学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：講義概要、受講時の心得、成績評価について 防災教育に果たす理科教育の役割			
第2回：地球領域の内容の系統性と自然災害発生メカニズムの整理			
第3回：神戸に起こりうる自然現象と災害の検討			
第4回：防災×理科の単元構想：災害発生メカニズムに着目した小学校第4学年「雨水の行方と土地の様子」の単元事例			
第5回：SDGs×防災×理科教育の考え方			
第6回：SDGsの視点を取り入れた防災×理科教育：小学校第5学年「流れる水の働きと土地の変化」の事例			
第7回：中学校第1学年「地震の伝わり方と地球内部の働き」における単元構成の検討			
第8回：震源と震央の立体模型製作			
第9回：P波・S波の実験及び初期微動継続時間について			
第10回：断層モデル実験（正断層・逆断層・褶曲）			
第11回：液状化現象モデル実験			
第12回：津波モデル実験			
第13回：地震が引き起こす被害と恵み			
第14回：火山噴火のモデル実験			
第15回：これからの防災教育における理科教育の在り方			
定期試験			

テキスト
小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）
参考書・参考資料等
わくわく理科3～6（啓林館）、未来ひろがるサイエンス1～3（啓林館）
学生に対する評価
定期試験（60％）、授業で課すレポート（40％）

授業科目名： 地学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森永速男
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標 （１）地球における自然現象（地学現象）全般のうち、中学校の理科教育で取り扱う内容について、その現象を理解する。 （２）（１）を通して必要な科学的情報を取捨選択し、生徒に地球科学における最新情報を正しく伝える力を身につける。			
授業の概要 地球における自然現象（地学現象）全般のうち、中学校の理科教育で取り扱う内容について、その現象の理解までの研究過程をより深く解説する。その中で、中学生が地学に対してより興味・関心を示すようになるために重要な知識や情報を提供する。 地学現象全般について解説するが、その中で特に「それら現象がどうして起こるのか（メカニズム）」、「それらの現象はどのような研究過程で分かったのか（理解の歴史）」など、中学校で使用されている教科書に十分な記述のない点について紹介し、現象が解明されてきた科学的な研究過程について深く理解してもらう。			
授業計画 第１回：地球の年齢と年代決定手法 第２回：兵庫県南部地震と東北地方太平洋沖地震（阪神・淡路大震災と東日本大震災） 第３回：最も恐ろしい火山現象：火砕流とその被害 第４回：オーロラの発生と地球磁場 第５回：生命を守る地球磁場とその逆転 第６回：生物が語る地球表層の環境変化 第７回：生物が語る日本列島の形成 第８回：古地磁気を示す日本列島の回転運動 第９回：地球温暖化と寒冷化 第１０回：地球の環境変化と資源 第１１回：放射線の理解 第１２回：六甲山の生い立ちと地震 第１３回：六甲山で起こった過去の大水害 第１４回：温泉など火山からの恩恵			

第15回：緊急地震速報と地震予知の現実

定期試験

テキスト

災害多発時代の今だからこそ 地球の恵みに感謝!!-素晴らしい地球のシステム-[増補改訂第2版] (森永速男・片尾浩・山本鋼志著、ふくろう出版)

参考書・参考資料等

その他、講義中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

授業科目名： 地学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 森永速男
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 地学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （１） 中学理科の地学分野で行う実験・実習を自分の手で実際に行うことにより、どの部分が難しいのかを理解する。 （２） （１）を通して、自身の授業において生徒に適切な指導を行うことができる。 （３） 様々な実験装置・器具を実際に使用することにより、どのように使用すれば生徒の安全を確保しながら効率よく実験を行えるのかを理解することができる。			
授業の概要 地球における自然現象（地学現象）全般のうち、中学校の理科教育で取り扱いのある事象を中心にに関する実験を行う。その中で、中学生が興味・関心を示すようになるために重要な視点、知識や指導法について理解してもらう。 中学校理科の教科書の中で紹介されている内容を中心に簡単な装置や材料でできる実験を工夫しながら行う。実験の手順、結果、改良すべき点、感想などを綴ったレポートを実験日翌週の開講日までに作成し、提出する。			
授業計画 第1回：火山噴火の再現 第2回：火山灰中の鉱物の分離 第3回：岩石薄片の作成 第4回：顕微鏡の使用法の理解 第5回：岩石と鉱物の肉眼観察と顕微鏡観察 第6回：化石のレプリカ作成とケイ藻化石の顕微鏡観察 第7回：地震波を用いた震源決定 第8回：揺れに強い構造物の作成 第9回：ラジオの気象通報を用いた天気図の作成 第10回：水蒸気から雲の生成 第11回：天体望遠鏡の使用法の理解 第12回：太陽黒点の観察 第13回：日時計の作成 第14回：岩石などの磁性測定			

第15回：インターネットを用いた野外の調査―地層と断層の観察

定期試験は実施しない。

テキスト

講義中に紹介するとともに講義資料を配付する。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）

学生に対する評価

レポート試験（70％）、実験ノート（30％）

授業科目名： 理科概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中達也 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 小学校・中学校教育における理科に関する目標・内容・見方・考え方について、基礎的・基本的な知識を概観する。 （１）小・中学校学習指導要領で示される小学校・中学校理科の目標・内容並びに理科という教科の本質についての知識を得る。 （２）具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
授業の概要 本授業の目的は、理科に関する目標・内容・見方・考え方について、基礎的・基本的な知識を概観し、理解することを目標とする。具体的には、小学校・中学校の学習指導要領を基に児童生徒の発達段階における理科教育の目的や内容の系統性を明らかにするとともに、児童生徒が経験する実験や観察を、学生自らが実際に行い、実験の目的や、実験・観察器具の使用方法について考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：講義概要、受講時の心得、成績評価について 第2回：理科教育の目的と目標：小学校・中学校学習指導要領を概観し、理科教育の目的と目標を理解する 第3回：理科教育の内容：学習指導要領理科の内容に関して、小学校と中学校の系統の一覧を作成させるという実習を行い、小、中学校の系統性をとらえる 第4回：理科の見方・考え方①（主として生命領域・地球領域）：児童・生徒の実態を発達的にとらえることから、バックワードデザインに基づく単元構想の作成に関して具体的な事例を通して理解する 第5回：理科の見方・考え方②（主としてエネルギー領域・粒子領域）：小学校第3学年「磁石の性質」、中学校第2学年「光と音」における複数の導入実験を考える活動を通して、教材研究の方法を理解する 第6回：理科授業の実際：実際の授業ビデオ等を参照しながら、集団準拠、あるいは目標準拠の評価方法、さらに観点別評価などの解説から、評価の方法を理解する 第7回：小学校エネルギー領域単元第5学年「電流がつくる磁力」：指導内容の概観と実験 第8回：中学校エネルギー領域単元第2学年「電流と磁界」：指導内容の概観と実験			

第9回：小学校粒子領域単元第5学年「物の溶け方」：指導内容の概観と実験 第10回：中学校粒子領域単元第1学年「水溶液」：指導内容の概観と実験 第11回：小学校生命領域第6学年「植物の養分と水の通り道」：指導内容の概観と実験 第12回：中学校生命領域第2学年「植物の体のつくりと働き」：指導内容の概観と実験 第13回：小学校地球領域単元第5学年「天気の変化」：指導内容の概観と実験 第14回：中学校地球領域単元第2学年「天気の変化」：指導内容の概観と実験 第15回：理科の授業構想・教材研究について 定期試験
テキスト 小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）
参考書・参考資料等 わくわく理科3～6（啓林館）、未来ひろがるサイエンス1～3（啓林館）
学生に対する評価 定期試験（50％）、毎回の授業最後に提出する小レポート（50％）

授業科目名： 理科実験指導法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深川 幹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では中学校理科の指導に必要な実験及び観察に関する基本的・実用的な知識・技能の習得をめざす。 本授業の到達目標は以下の通りとする。 （１） 中学校学習指導要領に示されている実験・観察に関する具体的な方法について理解することができる。 （２） 理科授業における安全指導の方法を理解し、学習指導に活用することができる。 （３） 実験指導や野外指導における指導方法を理解し、指導することができる。			
授業の概要 理科の授業では実験や観察を行い、科学的な概念の形成を行うことが必要になる。本講義では、理科授業における実験事故の防止や、具体的な観察の技法を学ぶとともに、学校内の環境を整備する具体的な方法について理解を深める。			
授業計画 第1回：中学校の理科授業における実験事故の現状 第2回：理科の学習指導要領における実験・観察の目標と内容 第3回：理科の学習指導要領における安全指導 第4回：スケッチの技法とレポートの作成の具体的な指導 第5回：顕微鏡の取り扱いと管理方法 第6回：天体の観察指導とモデル化実験の指導 第7回：学校ビオトープや校内緑化の具体的な方法 第8回：学校ビオトープを活用した観察指導 第9回：理科室の薬品の管理とガラス器具の取り扱い 第10回：実験指導におけるデータの取り扱い 第11回：実験指導における安全指導の計画 第12回：実験指導における安全指導の模擬実践と相互評価 第13回：野外指導における観察指導の計画 第14回：野外指導における観察指導の模擬実践と相互評価 第15回：模擬実践の振り返りとまとめ			

定期試験は実施しない。
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説理科編（平成29年7月 文部科学省）
学生に対する評価 レポート試験（50％）、模擬実践の発表内容（20％）、授業内での小レポート（30％）

授業科目名： サイエンス・コミュニケーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深川 幹、杉浦弘隆 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、サイエンス・コミュニケーションに関する具体的な方法について学習するとともに、小学生・中学生を対象とした科学教室の実践を通して、サイエンス・コミュニケーションの実際について理解を深めることをめざす。 本授業の到達目標は以下の通りとする。 （１）サイエンス・コミュニケーションの方法について理解することができる。 （２）新聞記事における科学技術報道の調査を通して、科学技術に関する報道を客観的な視点で見ることができる。 （３）小学生・中学生を対象にした科学教室の実施を通して、学校教育外の理科に関する具体的な方法の理解を理解することができる。			
授業の概要 生態学や有機化学の具体的なサイエンス・コミュニケーションの事例と、新聞における科学技術に関する報道を通して、サイエンス・コミュニケーションについて理解を深める。さらに、小学生・中学生向けの科学教室の計画及び実践を行い、サイエンス・コミュニケーションの具体的な方法への理解を深める。			
授業計画 第1回：サイエンス・コミュニケーションとは何か 第2回：社会教育とサイエンス・コミュニケーション 第3回：生態学分野の具体例（エコ・ツーリズム） 第4回：有機化学分野の具体例（アウトリーチ活動） 第5回：新聞記事における科学技術報道の調査と資料の作成 第6回：新聞記事における科学技術報道の調査発表 第7回：小学生向け科学教室の計画と準備 第8回：小学生向け科学教室の模擬実践 第9回：小学生向け科学教室の実践 第10回：小学生向け科学教室の振り返り 第11回：中学生向け科学教室の計画と準備 第12回：中学生向け科学教室の模擬実践			

第13回：中学生向け科学教室の実践

第14回：中学生向け科学教室の振り返り

第15回：サイエンス・コミュニケーションと理科教育

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

科学コミュニケーション論 新装版（藤垣裕子編・廣野喜幸著、東京大学出版会）

その他、授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

科学教室の実践の内容（60％）、授業内での小レポート（20％）、発表会の発表内容（20％）

授業科目名： 教科指導法（小中学 理科）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中達也
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校・中学校教育における理科に関する目標・内容・指導方法・評価方法について理解すると共に、児童・生徒の実態や時代背景に応じた実践的な指導方法を身に付ける。 （１）小・中学校学習指導要領で示される小・中学校理科の目標・内容並びに理科という教科の本質についての知識を得る。 （２）ICT機器の効果的な活用方法や、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。			
授業の概要			
本授業の目的は、学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことである。具体的には、理科授業設計において、各領域の特性や系統性、児童・生徒の特性をふまえた指導の手立てなどについて、指導案の作成と模擬授業を取り入れながら実践的に進める。また、現代の日本教育の環境変化の中で理科をどのように教えていくべきかを、ICT機器の活用や評価の具体例を取り上げつつ実践的に学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：講義概要、受講時の心得、評価及び、理科と教科の特性について			
第2回：理科の目標：過去から現在の小学校・中学校学習指導要領を概観し、理科教育の目標を理解する。			
第3回：国際学力調査とその結果の検討：TIMSS調査（理科）やPISA調査（科学リテラシー）の設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。			
第4回：小学校・中学校理科の内容の系統性：小学校・中学校学習指導要領における学習内容を概観するとともに、教科書の記述から内容の系統性を理解する。			
第5回：単元構想の方法：児童・生徒の実態を発達的にとらえることから、バックワードデザインに基づく単元構想の作成に関して具体的な事例を通して理解する。			
第6回：教材研究の方法：小学校第3学年「磁石の性質」、中学校第2学年「電流と磁界」における複数の導入実験を考える活動を通して、教材研究の方法を理解する。			
第7回：ICT機器の活用：小学校及び中学校地球領域を例にICT機器を用いた実験を実施し、その活用方法について理解する。			

第8回：理科教育の評価：実際の授業ビデオ等を参照しながら、集団準拠、あるいは目標準拠の評価方法、さらに観点別評価などの解説から、評価の方法を理解する。 第9回：実験・観察時の安全指導：実験実施に必要な安全管理と応急処置等について理解する。 第10回：学習指導案の作成方法：実際に作成された学習指導案を基に、記載事項やその作成方法について理解する。 第11回：小・中学校理科エネルギー領域模擬授業：学習内容の系統性を意識した模擬授業とそのリフレクションを行う。（1）小学校・中学校「電磁気单元」について 第12回：小・中学校理科粒子領域模擬授業：学習内容の系統性を意識した模擬授業とそのリフレクションを行う。（2）小学校・中学校「水溶液单元」について 第13回：小・中学校理科生命領域模擬授業：学習内容の系統性を意識した模擬授業とそのリフレクションを行う。（3）小学校・中学校「植物单元」について 第14回：小・中学校理科地球領域模擬授業：学習内容の系統性を意識した模擬授業とそのリフレクションを行う。（4）小学校・中学校「天気单元」について 第15回：理科教育の課題：近年の全国学力テストの結果と理科教育学の研究動向からみる科学的な説明活動の在り方について考える。
定期試験
テキスト 小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説理科編（平成29年7月 文部科学省）
参考書・参考資料等 わくわく理科3～6（啓林館）、未来ひろがるサイエンス1～3（啓林館）
学生に対する評価 定期試験（50%）、学習指導案の内容および模擬授業の発表内容（50%）

授業科目名： 教科指導法（中学理科）Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深川 幹、後藤田 洋介 担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では中学校の理科を指導する上で必要となる基本的な知識・技能の習得をめざす。本授業の到達目標は以下の通りとする。 （１）中学校学習指導要領理科編の要点を理解することができる。 （２）主に第２分野（生命・地球）の学習内容を理解し、教材研究に活用することができる。 （３）理科授業における安全指導の方法を理解し、学習指導に活かすことができる。 （４）学習指導案を構想し、学習指導に活用することができる。			
授業の概要 中学校の理科授業を行うために必要な基本的知識・技能を習得するため、中学校学習指導要領理科編に示される目標や学習内容、指導上の留意点などについて講義をする。さらに、学習指導案の作成と、その学習指導案を用いた模擬授業（第２分野（生命・地球））を行うことにより、中学校の理科授業の具体的な方法について理解を深める。			
授業計画 第１回：中学校学習指導要領における理科の目標と内容 第２回：理科の授業準備と理科室経営 第３回：野外観察における安全指導 第４回：実験指導における安全指導 第５回：中学校理科（第２分野）の目標と内容 第６回：ICTを活用した理科教育（第２分野） 第７回：中学校理科の学習指導案の作成方法 第８回：理科授業における指導と評価の一体化 第９回：中学校理科教科書の分析と教材研究 第１０回：模擬授業のための教材研究と学習指導案の作成 第１１回：「生物の観察と分類の仕方」の模擬授業と相互評価 第１２回：「生物の体の共通点と相違点」の模擬授業と相互評価 第１３回：「土地のつくりと変化」の模擬授業と相互評価 第１４回：「月と太陽」の模擬授業と相互評価 第１５回：模擬授業の振り返りと全体講評			

定期試験は実施しない。
テキスト 中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 レポート試験（40％）、模擬授業の発表内容（20％）、授業内での小レポート（40％）

授業科目名： 教科指導法（中学理科）Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 後藤田洋介 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では中学校の理科を指導する上で必要となる基本的な知識・技能の習得をめざす。 本授業の具体的な到達目標は以下の通りである。 （１）中学校学習指導要領理科編の第 1 分野の目標や学習内容を理解することができる。 （２）学習理論や教育方法を理解し、教材研究や学習指導に活用することができる。 （３）学習指導案を構想し、学習指導に活用することができる。			
授業の概要 中学校の理科授業を行うために必要な基本的知識・技能を習得するため、学習理論に基づいた理科授業の具体的方法について講義を行う。さらに、学習指導案の作成と、その学習指導案を用いた模擬授業（第 1 分野（エネルギー・粒子））を行うことにより、中学校理科の授業の具体的な方法について理解を深める。			
授業計画 第 1 回：中学校理科（第 1 分野）の目標と内容 第 2 回：学習指導要領理科編の変遷と学力調査 第 3 回：学習理論と理科の教材作成 第 4 回：仮説実験授業による理科授業の具体例 第 5 回：問題解決学習による理科授業の具体例 第 6 回：他教科との連携とカリキュラム・マネジメント 第 7 回：ICTを活用した理科教育（第 1 分野） 第 8 回：模擬授業の構想と学習指導案の作成 第 9 回：「力の働き」の模擬授業と相互評価 第 1 0 回：「電流と磁界」の模擬授業と相互評価 第 1 1 回：「運動の規則性」の模擬授業と相互評価 第 1 2 回：「状態変化」の模擬授業と相互評価 第 1 3 回：「化学変化と物質の質量」の模擬授業と相互評価 第 1 4 回：「水溶液とイオン」模擬授業と相互評価 第 1 5 回：模擬授業の振り返りと全体講評 定期試験は実施しない。			

テキスト

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（40％）、模擬授業の発表内容（20％）、授業内での小レポート（40％）

授業科目名： 教科指導法（中学理科）Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深川 幹、後藤田 洋介 担当形態： 複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、これまでの教科指導法（中学理科）で修得した基本的な知識・技能を活用して、中学校の理科授業における応用的な知識・技能の習得をめざす。 本授業の到達目標は以下の通りとする。 （１）中学校学習指導要領理科編における目標や学習内容を理解し、年間指導計画の作成に活用することができる。 （２）第２分野（生命・地球）や２つの分野に共通した学習内容を理解し、教材研究に活用することができる。 （３）学習指導案を構想し、学習指導に活用することができる。 （４）現代的諸課題（環境や防災など）を題材とした、中学校理科カリキュラムの構成について理解することができる。			
授業の概要 中学校の理科授業を行うために必要な基本的知識・技能を習得するため、グループでの探究活動や理科の年間指導計画の作成、及び現代諸課題（環境や防災など）を題材とした中学校理科のカリキュラム構成について講義を行う。さらに、学習指導案の作成と、その学習指導案を用いた模擬授業（主に第２分野（生命・地球））を行うことにより、中学校の理科授業の具体的な方法について理解を深める。			
授業計画 第１回：理科授業における主体的・対話的で深い学び 第２回：グループでの探究活動とICTの活用例 第３回：理科の指導計画と年間指導計画の作成 第４回：小学校理科・高等学校理科と中学校理科の接続 第５回：模擬授業の構想と学習指導案の作成 第６回：「植物の体のつくりと働き」の模擬授業と相互評価 第７回：「生物の成長と殖え方」の模擬授業と相互評価 第８回：「生物と環境」の模擬授業と相互評価 第９回：「火山と地震」の模擬授業と相互評価 第１０回：「天気の変化」の模擬授業と相互評価			

第11回：「自然環境の保全と科学技術の利用」の模擬授業と相互評価

第12回：中学校理科と環境教育

第13回：中学校理科と防災教育

第14回：中学校理科とエネルギー教育

第15回：まとめと中学校理科の展望

定期試験は実施しない。

テキスト

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（50％）、模擬授業の発表内容（25％）、授業内での小レポート（25％）

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柴山慶太
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 憲法が保障する権利、自由がどのようなものであるかを理解し、これを保持するために何をしなければならないかを知る。			
(2) 憲法の各規定を、実際の生活でどう活用できるかを考えることができるようになる。			
(3) 憲法改正について、その内容の是非を判断できるようになる。			
授業の概要			
憲法の役割を考察した上で、日本国憲法の人権規定の部分を中心に概説する。公共の福祉の意義、精神的自由と経済的自由の違い、違憲審査基準を学習した後、判例を分析しながら各人権規定を確認していく。統治、平和主義、憲法改正などについても触れる。			
授業計画			
第 1 回：【オリエンテーション、憲法とは何か】提示された判例を元に、共通点を考える。社会契約論についても触れる。			
第 2 回：【公共の福祉】人権制約の必要性和その根拠について、具体例を元に考える。			
第 3 回：【憲法の構造】個人の尊厳を中心とする人権規定と、これを支える統治機構について概観する。			
第 4 回：【精神的自由概要】精神的自由と呼ばれる人権にはどのようなものがあるか、概観する。			
第 5 回：【経済的自由概要】経済的自由と呼ばれる人権にはどのようなものがあるか、概観する。			
第 6 回：【二重の基準】精神的自由と経済的自由で、なぜ違憲審査基準を異にすべきであるのか考える。			
第 7 回：【精神的自由各論】 19 条、 21 条について、判例を元に検討する。			
第 8 回：【経済的自由各論】 22 条、 29 条について、判例を元に検討する。			
第 9 回：【平等権】 14 条の平等の意味、違憲審査基準を考える。			
第 1 0 回：【その他の人権】生存権など、その他の人権について概観する。			
第 1 1 回：【これまでの復習】（小テストも予定）			
第 1 2 回：【司法権の役割、憲法訴訟のルール】司法権の役割を知り、なぜ合憲限定解釈などのルールがあるのかを考える。			
第 1 3 回：【統治（立法権、行政権）】国会、内閣の役割と権力分立構造を見る。なぜ代表民主制が必要か検討する。			
第 1 4 回：【平和主義】平和主義について、政府見解・判例分析などを通じて検討する。			
第 1 5 回：【憲法改正、まとめ】政府の憲法改正案について、これまでの知識を使って、その是非を議			

論する。
定期試験
テキスト
なし
参考書・参考資料等
憲法（芦部信義、岩波書店） 憲法の条文を用意（インターネットのe - Gov サイトや図書館の六法などからダウンロード） プレップ憲法（戸松秀典、弘文堂）
学生に対する評価
筆記試験（70％）、授業中の小テスト（30％）

授業科目名： 健康スポーツ科学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 近藤みづき、岩越美恵、吉田幸恵、八木孝和、松本大祐
			担当形態： オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）授業で取り扱う健康や運動に関する基本的な知識を修得できる。 （２）授業で取り扱う健康や運動に関する知識を自分の生活に即して考え、生活改善の行動に移すことができる。 （３）授業で学んだ健康や運動に関する知識を、自ら振り返り、その内容をまとめることができる。			
授業の概要			
この講義の目標は、健康について幅広い分野から考究するものである。普段当たり前にある健康を医学、生理学、保健学、口腔保健学、栄養学、体育学等の分野から解き明かしていく。学生各自のライフ・スタイルを見直し、変革のきっかけになることを期待している。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（担当者：近藤）			
第2回：睡眠のメカニズムについて（担当者：岩越）			
第3回：口の健康について（担当者：八木）			
第4回：栄養について（担当者：吉田）			
第5回：運動と体力について（担当者：近藤）			
第6回：運動と筋肉について（担当者：松本）			
第7回：運動とストレスについて（担当者：松本）			
第8回：学修の到達目標の確認（担当者：近藤）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
各担当教員より適宜紹介			
学生に対する評価			
レポート試験（４０％）、提出物（毎回のふりかえりシート）（５０％）、グループワークの活動内容（１０％）			

授業科目名： 健康スポーツ科学Ⅲ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 近藤みづき、柳本太三
				担当形態： クラス分け・複数
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標				
(1) 各種運動やスポーツの基本的な技能の修得を通じて運動やスポーツを楽しむことができる。 (2) 各種運動やスポーツの基本的な技能や知識（特性、ルール、マナー等）の修得を通じて運動やスポーツを楽しむことができる。 (3) 各種の運動やスポーツを通じて他者とコミュニケーションをとり、協力して課題を達成することができる。 (4) 健康の保持増進に対して自己の心身や生活態度などを管理することができる。 (5) 各種運動やスポーツに主体的に取り組むことができる。				
授業の概要				
健康の保持増進に運動が不可欠であるにもかかわらず、利便性の進んだ現代社会において、私たちは慢性的な運動不足に陥りがちである。授業では、実際に身体を動かすことで運動やスポーツの楽しさや爽快感を体感する。また、運動やスポーツの実践を通し、コミュニケーション能力を高めるとともに、基本的な技能や知識を修得し、ルール・マナーを遵守する態度を育成する。また、新しい動きかたを修得する過程を通じて、生涯にわたって主体的に運動やスポーツに取り組むことの重要性を理解する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーションとグループ分け（担当者：近藤・柳本）				
第2回：第1 グループ：テニス①ラケットティング（担者：近藤）				
第2 グループ：バスケットボール①ボール慣れ、基本技能（シュート・ドリブル・パス） （担当者：柳本）				
第3回：第1 グループ：テニス②基本のストローク（担当者：近藤）				
第2 グループ：バスケットボール②ゲームを中心とした攻防（オフェンスの基本の動き） （担当者：柳本）				
第4回：第1 グループ：テニス③クロスラリー（担当者：近藤）				
第2 グループ：バスケットボール③ゲームを中心とした攻防（ディフェンスの基本の動き） （担当者：柳本）				
第5回：第1 グループ：テニス④サービスレシーブ（担当者：近藤）				

第2 グループ：バスケットボール④作戦を工夫したゲーム（担当者：柳本）
第6回：第1 グループ：テニス⑤ダブルスゲームの進め方（担当者：近藤）
第2 グループ：バレーボール①ボール慣れと基本技能（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）（担当者：柳本）
第7回：第1 グループ：テニス⑥ダブルスゲーム（担当者：近藤）
第2 グループ：バレーボール②基本技能（サーブ・レシーブ）とミニゲーム（担当者：柳本）
第8回：第1 グループ：テニス⑦戦術を含んだダブルスゲーム（担当者：近藤）
第2 グループ：バレーボール③ゲーム（担当者：柳本）
第9回：第1 グループ：バスケットボール①ボール慣れ、基本技能（シュート・ドリブル・パス）（担当者：柳本）
第2 グループ：テニス①ラケットティング（担当者：近藤）
第10回：第1 グループ：バスケットボール②ゲームを中心とした攻防（オフェンスの基本の動き）（担当者：柳本）
第2 グループ：テニス②基本のストローク（担当者：近藤）
第11回：第1 グループ：バスケットボール③ゲームを中心とした攻防（ディフェンスの基本の動き）（担当者：柳本）
第2 グループ：テニス③クロスラリー（担当者：近藤）
第12回：第1 グループ：バスケットボール④作戦を工夫したゲーム（担当者：柳本）
第2 グループ：テニス④サービスレシーブ（担当者：近藤）
第13回：第1 グループ：バレーボール①ボール慣れと基本技能（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）（担当者：柳本）
第2 グループ：テニス⑤ダブルスゲームの進め方（担当者：近藤）
第14回：第1 グループ：バレーボール②基本技能（サーブ・レシーブ）とミニゲーム（担当者：柳本）
第2 グループ：テニス⑥ダブルスゲーム（担当者：近藤）
第15回：第1 グループ：バレーボール③ゲーム（担当者：柳本）
第2 グループ：テニス⑦戦術を含んだダブルスゲーム（担当者：近藤）
定期試験は実施しない。
テキスト なし
参考書・参考資料等 適宜紹介する。
学生に対する評価 提出物（レポート等）（35%）、実技・試合結果（35%）、主体性・活動量（30%）

授業科目名： 英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： C.K. Dallos 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 基本的な英語運用力を高める。			
授業の概要 様々な日常の場面で使われる英語表現を習得する。			
授業計画 第1回：発音練習/ 自己紹介/ 語彙のまとめ 第2回：Unit 1A Hi there! (はじめまして) Unit 1B Where do you work? (お仕事は?) 第3回：Unit 2A I never get up late. (私は寝坊をしません) Unit 2B I do karaoke on Wednesday. (水曜日にはカラオケに行きます) 第4回：Unit 3A Can You use a computer? (コンピューターを使えますか?) Unit 3B I can play basketball. (バスケットボールができます) 第5回：Review 1 (まとめ1)/ Unit 4A I like Italian food. (イタリア料理が好きです) 第6回：Unit 4B My perfect date likes music. (理想の相手は音楽好きです) 第7回：Unit 5A Can I call you back later? (後でかけ直してもいいですか?) 第8回：Unit 5B It's snowing. (雪が降っています) 第9回：Unit 6A How do I get to the bank? (銀行にはどうやって行けばいいですか?) 第10回：Unit 6B Where can I buy a ticket? (チケットはどこで売っていますか?) 第11回：Review 2 (まとめ2)/ Picture puzzle listening exercises (絵パズルでリスニング) 第12回：Unit 7A Would you like to go to the movies? (映画に行かれますか?) 第13回：Unit 7B I'm babysitting on Thursday. (木曜日はベビーシッターをしています) 第14回：Music listening exercise (音楽でリスニング) 第15回：Comprehension check; Look at and discuss teacher's photos (まとめ/ 先生の写真について話し合おう)			
定期試験			
テキスト Get Real! 1 (Angela Buckingham, Miles Craven and David Williamson、MACMILLAN)			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（４０％）、提出物（３０％）、発表（５％）、小テスト（２５％）

授業科目名： 英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 脇本聡美
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 英語運用力を高める。 (2) 異文化理解を深める。			
授業の概要 英語運用力を高めるために、英語を使う実践的な活動を行う。さらに、英語発表を通して海外の国やその文化について興味を深める。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション/ 英語で自己紹介 第 2 回：Unit 1 Making Waves with a Magical Instrument (不屈のテルミン奏者)/ 英語発表のテーマを決める 第 3 回：Unit 1 Making Waves with a Magical Instrument (不屈のテルミン奏者) まとめ 第 4 回：Unit 2 Backstage Tour with Augmented Reality Stars (ARアイドルの裏側に迫る/ 英会話 (入国審査) / 英語発表 1 (各回 2 人ずつ発表、テーマ：訪れたい海外の都) 第 5 回：Unit 2 Backstage Tour with Augmented Reality Stars (ARアイドルの裏側に迫る) ま とめ/ 英語発表2 第 6 回：小テスト 1/ 英語発表3 第 7 回：小テスト解説/ Unit 5 Eco-Friendly Statement (衣料品ロス一名前を変えて) / 英語発表4 第 8 回：Unit 5 Eco-Friendly Statement (衣料品ロス一名前を変えて) まとめ/ 英会話 (レストラン) / 英語発表5 第 9 回：Unit 8 Boccia Boom Revitalizing Japanese Companies (企業に広がるボッチャ競技) / 英語発表6 第 1 0 回：Unit 8 Boccia Boom Revitalizing Japanese Companies (企業に広がるボッチャ競技) グループワークでまとめ/ 英語発表7 第 1 1 回：小テスト2/ 英語発表8 第 1 2 回：小テスト解説/ クリスマスのアクティビティ/ 英語発表9 第 1 3 回：Unit 10 All Blacks Cause City to Rethink Ink (ラグビーがつなぐリスペクト/ 英語発表10 第 1 4 回：Unit 10 All Blacks Cause City to Rethink Ink (ラグビーがつなぐリスペクト)			

グループワークでまとめ/ 英語発表11

第15回：英会話（体調不良）/ 英語発表11 まとめ
定期試験

テキスト

NHK Newslines 4（Tatsuroh Yamazaki and Stella M. Yamazaki、金星堂）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

提出物発表（12％）、小テスト（18％）、英語発表（20％）、定期試験（50％）

授業科目名： 情報基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大城亜水
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) Word の基本操作を習得した上で、様々な文章が作成できること。			
(2) Excel の基本操作を習得した上で、様々な計算、グラフの作成や、データ分析ができること。			
授業の概要			
昨今、「Society5.0」実現に向けた数理データサイエンスの学びが強く求められている。 そこで、本演習は上記の点を踏まえながら、大学生活や就職活動において必要となるコンピューターやインターネットスキル習得のために、Windows やMicrosoft Office のアプリケーションの基本的な操作方法を学修する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス (Windows の基本操作)			
第2回：インターネット・情報検索 (サーチエンジンやインターネット種々のWeb サイトから必要な情報を収集・分析、保存・保管)			
第3回：manaba、メールの活用術 (manaba の使い方、ビジネスメールの書き方・送り方)			
第4回：Word の基本操作 (Word の様々な機能の把握)			
第5回：Word の練習① (保護者に向けたおたよりの作成)			
第6回：Word の練習② (レポートに必要なWord 機能の情報収集・整理・分析)			
第7回：Word の練習課題 (レポートの作成)			
第8回：Word の応用課題 (Word の機能を使って自身で課した作品の作成)			
第9回：Word の応用課題 (Word の機能を使って自身で課した作品の作成)			
第10回：Excel の練習① (計算、見栄え)			
第11回：Excel の練習② (さまざまな関数)			
第12回：Excel の練習③ (グラフの作成)			
第13回：Excel の練習課題 (Excel の機能を使ってカレンダーの作成)			
第14回：Excel の応用課題 (Excel の機能を使って自身で課した作品の作成)			
第15回：学修の到達目標の確認 (学修のふり振り返りと共有)			
定期試験は実施しない。			
テキスト			

学生のためのOffice2016 &情報モラル (noa出版)
参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価
レポート課題 (25%)、提出物 (30%)、作品 (40%)、取り組み姿勢 (5%)

授業科目名： 情報メディア演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大城亜水
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
「情報基礎」で学んだノウハウを駆使しながら、効果的なプレゼンテーションコンテンツが作成できること。			
授業の概要			
昨今、「Society5.0」実現に向けた数理データサイエンスの学びが強く求められている。そこで、本演習は「情報基礎」に引き続き、大学生活や就職活動において必要となるコンピューターやインターネットスキル習得のために、Windows やMicrosoft Office のアプリケーションの基本的な操作方法を学修する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（「情報基礎」のおさらい）			
第2回：PowerPoint の基本操作とプレゼンテーション技法（PowerPoint の様々な機能の把握およびプレゼンテーション技法について学ぶ）			
第3回：PowerPoint でプレゼンテーション：「情報モラル」①（グルーピング、アクションプラン作成、「情報モラルとセキュリティ」をテーマに情報の収集・整理・分析）			
第4回：PowerPoint でプレゼンテーション：「情報モラル」②（発表準備）			
第5回：PowerPoint でプレゼンテーション：「情報モラル」③（発表、相互評価）			
第6回：PowerPoint でプレゼンテーション：「商品紹介」①（グルーピング、アクションプランの作成、グループで商品紹介の題材を選び、情報の収集・整理・分析）			
第7回：PowerPoint でプレゼンテーション：「商品紹介」②（発表計画の作成）			
第8回：PowerPoint でプレゼンテーション：「商品紹介」③（発表準備）			
第9回：PowerPoint でプレゼンテーション：「商品紹介」④（商品紹介の発表、相互評価）			
第10回：PowerPoint でプレゼンテーション：「自由課題」①（グルーピング、グループで発表するテーマを決める）			
第11回：PowerPoint でプレゼンテーション：「自由課題」②（アクションプランの作成、グループで自由課題の情報収集・整理・分析）			
第12回：PowerPoint でプレゼンテーション：「自由課題」③（発表計画の作成）			
第13回：PowerPoint でプレゼンテーション：「自由課題」④（発表準備）			
第14回：PowerPoint でプレゼンテーション：「自由課題」⑤（自由課題の発表、相互評価）			

第15回：学修の到達目標の確認（学修のふり返りと共有）

定期試験は実施しない。

テキスト

学生のためのOffice2016 &情報モラル（noa出版）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート課題（30％）、提出物（25％）、プレゼンテーション（40％）、取り組み姿勢（5％）

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 光成研一郎
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
(1)教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。			
(2)教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。			
(3)教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。			
(4)家庭、学校、社会のそれぞれの教育的役割および連携の重要性について理解する。			
(5)生涯学習時代における学びの在り方について理解する。			
授業の概要			
従来の教育観が大きく揺らぎ、信頼を失いつつある一方で、今日ほど教育の必要性が叫ばれている時代もない。それゆえに今教育が根本的、原理的に問われなければならない。この教育原理においては、教育の基本原則とは何か、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。			
授業計画			
第1回：教育の語義と概念			
第2回：教育の理念・目的			
第3回：教育の必要性和可能性			
第4回：教育の歴史・思想			
第5回：教育の基礎的概念と諸理論			
第6回：近代教育制度の成立と展開			
第7回：教育を成り立たせる要素			
第8回：家庭教育の特質と機能（中間テストを実施）			
第9回：現代家庭教育の抱える課題			
第10回：学校教育の特質と機能			
第11回：現代学校教育の抱える課題			
第12回：社会教育と生涯学習			

第13回：生涯学習時代における学びの在り方

第14回：教育の不易流行 ―幼稚園教育要領、学習指導要領の変遷とともに―

第15回：教育の課題と展望 補足とまとめ

定期試験

テキスト

教育のアイデア（西本望・光成研一郎編著、昭和堂）

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、小学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）、生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

学生に対する評価

定期試験（50％）、平常点（ブリーフレポート、課題の提出状況等）（10％）

その他（中間テスト等）（40％）

授業科目名： 教育の思想と歴史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 京極重智
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業の目標は、教育の思想や歴史において、教育の基本的概念や理念がどのように現れてきたのか、また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかを理解することにある。具体的な到達目標は以下の通りである。			
(1) 教育の歴史及び思想に関する基礎的概念について説明することができる。			
(2) 教育及び学校の変遷について説明することができる。			
(3) 代表的な教育思想家の考えに基づいて現代における教育課題を考えることができる。			
授業の概要			
本授業は、教育や学校に関する思想史的理解を深めるため、主にヨーロッパおよび日本における古代から近代にかけての教育思想と教育史について講義を行う。具体的には、ヨーロッパおよび日本の教育思想史を、古代、中世、近代という3つの大きなテーマに分けて、全15回の授業を行い、それぞれの思想や歴史の背後にある社会的意義や課題を浮き彫りにすることで、教育に対する探究的な考察力を高める。			
授業計画			
第1回：イントロダクションー思想的・歴史的営みとしての教育			
第2回：古典古代における教育の思想と歴史（1）古典古代における教育			
第3回：古典古代における教育の思想と歴史（2）ソクラテスとプラトン			
第4回：古典古代における教育の思想と歴史（3）アリストテレス			
第5回：中世ヨーロッパにおける教育の思想と歴史			
第6回：近代教育思想（1）コメニウス			
第7回：近代教育思想（2）ロック			
第8回：近代教育思想（3）ルソー			
第9回：近代教育思想（4）ペスタロッチ			
第10回：近代教育思想（5）フレーベル			
第11回：近代教育思想（6）ヘルバルトとヘルバルト学派			
第12回：近代教育思想（7）新教育運動			
第13回：日本における教育の思想と歴史（1）古代の教育			
第14回：日本における教育の思想と歴史（2）中世の教育			

第15回：日本における教育の思想と歴史（3）近世・現代の教育

定期試験は実施しない。

テキスト

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、小学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

教育思想史(今井康雄編、有斐閣)、教育思想事典 増補改訂版(教育思想史学会編、勁草書房)

学生に対する評価

レポート試験（70％）、ミニレポート（30％）

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山下敦子 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	職務の意義及び教員の役割・職務の内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 （２）教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 （３）教員の職務内容の全体像や教育公務員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 （４）学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。			
授業の概要			
現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割、教員の資質能力と職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適正を判断し、進路選択に資する教職のあり方を理解する。			
授業計画			
第１回：教育のめざすものとはなにかー関係法令の把握と理解ー			
第２回：学校教育とはー進路選択に向け、他業種と比較して教員の職業的特徴の理解ー			
第３回：教職の社会的意義ー公教育の目的とその担い手である存在意義の理解ー			
第４回：教員に求められる資質や人間性（１）ー教職観変遷の理解ー			
第５回：教員に求められる資質や人間性（２）ー今日の教員に求められる基礎的な資質能力の理解ー			
第６回：教育公務員の職務（１）ー児童・生徒への指導と指導以外の校務を含めた教員の服務全体の理解ー			
第７回：教育公務員の職務（２）ー教員研修の意義と制度上の位置づけの理解ー			
第８回：教育公務員の職務（３）ー専門的職能形成し続ける必要性の理解（教員のライフコースと成長）ー			
第９回：教育公務員の職務（４）ー教育公務員に課せられる服務及び身分上の義務と身分保障の理解ー			
第１０回：チーム学校への対応(1)ー保護者・地域との連携ー			
第１１回：チーム学校への対応(2)ーいじめ・不登校等に関する指導（校内外の専門家との連携・分担）ー			
第１２回：チーム学校への対応(3)ー子どもの安全を守る（校内外の専門家との連携・分担）ー			

第13回：チーム学校への対応(4)

－チーム学校としての協働と校務分掌(校内外の専門家との連携・分担)－

第14回：チーム学校への対応(5)

－教育を支える環境と文化を捉えたカリキュラムマネジメント－

第15回：教職の役割と資質－教職について再確認と自己の目標の設定－

定期試験

テキスト

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

教育のアイデア（武安宥 監修、昭和堂）

学生に対する評価

定期試験（50％）、毎回の授業における課題提出物（50％）

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 郭 暁博
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）日本の教育行政に関する基礎的な事項について、説明することができる。 （２）複雑化・多様化する学校教育の課題を認識し、それに対応するための教育政策の動向について、自分の見解を述べることができる。 （３）自らの経験だけにとらわれず、授業の内容をもとに、多様な教育問題について主体的に考える姿勢を身に付ける。 （４）学校と地域の連携、学校における安全管理と防災の現状と課題について、身近な例をもとに説明することができる。			
授業の概要			
本授業では、日本の公教育を支える行政・法規・財政の仕組みに関する基礎的事項について説明・考察を行う。具体的には、教育法規、教育行政組織、教育課程行政等の学習を通して、公教育の基盤となる部分を理解し、教育財政や私学行政、多様な教育機会をめぐる問題等の学習を通して、公教育と私教育の関係性についても検討する。 また、かつてないほど変化の激しい現代社会において、今日の学校教育を取り巻く諸課題と、それに対応するための教育政策の動向についても考察する。 さらに、学校と地域の連携について、連携が求められる背景を踏まえた上で、関連する政策の動向を確認する。学校安全への対応については、防災・危機管理と学校の役割について、身近な例を参照しながら考察する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：教育行政学を学ぶ意味、現代日本の教育を取り巻く諸課題			
第2回：教育行政の基本原理：「教育行政」の理念・特徴はどのようなものか？			
第3回：教育法規①：教育法規の基礎			
第4回：教育法規②：日本国憲法と教育基本法			
第5回：中央の教育行政組織：文部科学省とはどのような機関なのか			
第6回：教育財政：教育費と公財政			
第7回：教育政策と教育行政：教育政策が出来上がるまで：事例分析			
第8回：地方の教育行政組織：地方の行政機関と教育委員会			
第9回：教育課程行政と教科書行政：学校が教える内容はどのように決められているのか？			

第10回：教員人事行政：教員の養成・採用・研修

第11回：私学行政：公教育における私学の存在意義

第12回：学校経営、学校評価と開かれた学校づくりの理論と事例

第13回：諸外国の教育事情や教育改革の政策動向

第14回：学校安全への対応：学校の安全管理と防災

第15回：全体のまとめ（学修の到達目標の確認）

定期試験

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

教育行政提要（高見茂・服部憲児編著、協同出版）

教育法規スタートアップ・ネクスト：Crossmedia Edition（高見茂、開沼太郎、宮村裕子編著、昭和堂）

学生に対する評価

定期試験（60％）、平常点（コメントシート・ワークシートなど）（40％）

授業科目名： 教育心理学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 柳原利佳子
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標				
(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。				
(2) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。				
授業の概要				
教育心理学は教育や保育に携わろうとする者にとって欠かせない乳幼児・児童及び生徒理解の基礎となる学問である。教育心理学の4領域「発達」「学習」「人格」「測定・評価」の内容を中心に講義を行うことで、子どもの心身の発達及び学習の過程について、教育心理学の専門用語や理論などの基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。				
授業計画				
第1回：教育心理学とは、発達の特徴				
第2回：遺伝と環境				
第3回：発達と教育				
第4回：思考の発達				
第5回：記憶のしくみ				
第6回：学習理論				
第7回：動機づけ				
第8回：パーソナリティの理論				
第9回：パーソナリティの測定				
第10回：学級集団と学級経営				
第11回：不適応行動				
第12回：知能				
第13回：発達援助の理解				
第14回：教育評価				
第15回：学修の到達目標の確認				
定期試験				
テキスト				

教職に生かす教育心理学（石井正子・中村徳子編著、みらい）
参考書・参考資料等 教育心理学ルック・アラウンド わかりたいあなたのための教育心理学（山崎史郎編著 おうふう）
学生に対する評価 定期試験（５５％）、小テスト・小レポート（４５％）

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岩越美恵
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 障害とは何か、社会との関係すなわち自分たちとの関係を理解し、行動できる。			
(2) 特別の支援を必要とする幼児・児童の様々な障害特性及び心身の発達を理解している。			
(3) 特別の支援を必要とする幼児・児童に対する教育課程や支援の方法を理解している。			
(4) 障害は無いが特別の教育的ニーズのある幼児・児童の学習上または生活上の困難とその対応について理解している。			
(5) 教育のゴールである障害のある人の自律・自立した地域生活についてイメージできる。			
授業の概要			
2012年の文部科学省の調査では、通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育支援を必要とする児童生徒の割合は約6.5%と言われており、その他の特別な支援を必要としている子ども達の理解と支援方法を、他の教員、保護者、関連機関と連携しながら、いわゆる健常児たちへの合理的配慮も考えた、インクルーシブ教育ができるための知識や技術を習得し、さらに自分でそれらを磨いていける力をつける。障害と社会との関係を自覚し、障害のある人たちの将来の自律・自立生活に向けて、教師として市民として何が必要であるかを考える。			
授業計画			
第1回：障害とは何か、インクルーシブ教育の理念			
第2回：肢体不自由児の理解と支援			
第3回：重症心身障害児、病弱児、視聴覚障害児の理解と支援			
第4回：知的障害児の理解と支援			
第5回：発達障害についての理解と支援（総論と自閉症スペクトラム症）			
第6回：発達障害についての理解と支援（AD/HDと限局性学習障害）			
第7回：わが国の特別支援教育のしくみ（自立活動の位置づけと内容を含む）			
第8回：学校・家庭・地域との連携（障害以外の要支援児対応を含む）			
定期試験			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			

そうだったのか！発達障害の世界—子どもの育ちを支えるヒント（石川道子著、中央法規）
その他、授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（８０％）、提出物（２０％）

授業科目名： 教育課程総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西本 望
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： （１）教育課程や指導計画の意義を理解するとともに役割や機能を把握し、それまでの変遷やその時代の社会的背景や要請について理解している。 （２）教育課程の編成や指導計画を作成するときの観点や方法などについて理解している。 （３）編成の背景となる心身の成長・発達や社会的状況等について理解している。 （４）教育課程や指導計画を省察し、評価および省察と改善(カリキュラム・マネジメント)についての意義や重要性を理解している。			
授業の概要： 人格の完成の実現を保障するために、教育課程や指導計画について意義や編成の方法について理解する。さらに各学校種の実情に応じた教育課程や指導計画の評価および省察と改善(カリキュラム・マネジメント)を学ぶ。具体的には、歴史的変遷にともなう社会的背景や要請、編成の方策と類型、評価と省察および改善、近年の動向について理解する。さらに家庭教育や地域の教育との連携および学校園や施設間との教育課程や保育の計画との接続などについて知識や技術を身につける。			
授業計画 第１回：教育課程とは 第２回：教育課程の意義 第３回：教育課程の社会的役割と機能 第４回：インフォーマルな教育課程とフォーマルな教育課程 第５回：教育課程の歴史的経緯(1) カリキュラム成立以前の教育方法 第６回：教育課程の歴史的経緯(2) カリキュラムの黎明期 第７回：教育課程の類型(1) カリキュラム編成の観点と思想（教科・領域の横断、スコープとシーケンス） 第８回：教育課程の類型(2) 教科カリキュラムと経験カリキュラム 第９回：教育課程の類型(3) 種々のカリキュラムと改善と方策(カリキュラム・マネジメントを含む) 第１０回：教育課程編成の背景(1) 子供の成長・発達とターニングポイント:シークエンス、ヒドゥンカリキュラムの立場から 第１１回：教育課程編成の背景(2) 法および学習指導要領との関連：文科省、学校、教師の役割			

第12回：評価の意義と解釈および改善(カリキュラム・マネジメントを含む) 第13回：教育課程・学習指導計画の編成と展開(1) 長期指導計画の概念と行事の意味 第14回：教育課程・学習指導計画の編成と展開(2) 校種間の円滑な接続 第15回：教育課程・学習指導計画の作成 補足とまとめ 定期試験
テキスト 教育のアイデア（西本望・光成研一郎編著、昭和堂）
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）
学生に対する評価 定期試験（50%）、授業内レポート（50%）

授業科目名： 道徳教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 國崎 大恩
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 本授業の目標は、道徳教育及び道徳科について理論的・実践的理解を深めるとともに、道徳科の授業を行うことができるようになることである。具体的な到達目標は以下の通りである。 (1) 道徳教育に関する理論を説明することができる。 (2) 先進的事例を踏まえ、道徳教育の実践的課題について説明することができる。 (3) 道徳科の授業を計画し、指導案を書くことができる。 (4) 道徳科の授業を振り返り、実践の改善にむけた反省をすることができる。			
授業の概要 本授業では、道徳教育に関する原理や歴史といった理論的な内容と、道徳教育をおこなうための方法論や具体的なトピックといった実践的な内容を扱い、道徳教育についての総合的な知識を広げる。さらに、指導案作成と模擬授業を通じて、道徳教育の実践的指導力を養う。			
授業計画 第1回：イントロダクションー「道徳科」を振り返る 第2回：「道徳」とは何か 第3回：道徳教育の歴史的変遷（1）江戸期から戦前まで 第4回：道徳教育の歴史的変遷（2）戦後から現代まで 第5回：「特別の教科 道徳」をめぐる 第6回：道徳性の発達理論 第7回：道徳科の学習指導要領における要点の確認 第8回：道徳教育における評価について 第9回：道徳科の学習指導案の作成について 第10回：模擬授業（1）ーグループAの授業研究と模擬授業 第11回：模擬授業（2）ーグループBの授業研究と模擬授業 第12回：模擬授業（3）ーグループCの授業研究と模擬授業 第13回：模擬授業（4）ーグループDの授業研究と模擬授業 第14回：模擬授業（5）ーグループEの授業研究と模擬授業 第15回：主体的・対話的で深い学びとして道徳科に向けて			

定期試験は実施しない。

テキスト

小学校学習指導要領（平成２９年３月告示 文部科学省）、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成２９年７月 文部科学省）、中学校学習指導要領（平成２９年３月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成２９年７月 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（５０％）、模擬授業・指導案（２０％）、小レポート（３０％）

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 牛頭哲宏、山下敦子 担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ (１) 総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解 すること。 (２) 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的 な能力を身に付けること。 (３) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解すること。			
授業の概要 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う ことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育 成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な 角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計 画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付 ける。			
授業計画 第1回：総合的な学習の時間って何を教えるの？ 学習指導要領と各学校の目標と内容 (担当:牛頭哲宏、山下敦子) 第2回：授業時間をどう生かす？ 年間計画と指導案の作成(担当:牛頭哲宏) 第3回：子どもが主体的になる探究課題の設定と学びのフィールド 探究課題づくり実践 (担当:山下敦子) 第4回：Team Based Learningを通した学びの場の作り方(1) Team Based Learningの実践 (担当:山下敦子) 第5回：Team Based Learningを通した学びの場の作り方(2) 自己評価と他者評価による振り返り (担当:牛頭哲宏) 第6回：ものづくりを通して指導のプロセスを考察する ものづくり活動の実践 (担当:牛頭哲宏) 第7回：ものづくりを通して学んだことの意味を考察する 実践内容の振り返りと考察 (担当:山下敦子)			

第8回：討論や発表を楽しむ授業(1) 情報の収集と再構成(担当：牛頭哲宏) 第9回：討論や発表を楽しむ授業(2) プレゼンテーションとディベート実践(担当：牛頭哲宏) 第10回：義務教育現場における実践事例の考察(1) 国際理解(担当：山下敦子) 第11回：義務教育現場における実践事例の考察(2) 環境(担当：山下敦子) 第12回：義務教育現場における実践事例の考察(3) 福祉・健康(担当：山下敦子) 第13回：「総合的な学習の時間」における指導技術 ICT機器の利用(担当：牛頭哲宏) 第14回：学んだ実感を味わわせるポートフォリオ評価 ポートフォリオ評価学修活動の実践 (担当：牛頭哲宏) 第15回：まとめ：ふたたび「総合的な学習の時間って何を教えるの？」(担当：牛頭哲宏、山下敦子) 定期試験
テキスト 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成29年7月文部科学省) 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編(平成29年7月文部科学省)
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 定期試験（30％）、各時間の振り返りレポート（50％）、制作物の提出等（20％）

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤原靖浩
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業のねらいは、特別活動に関する理解を深め、その実践的指導力を身につけることである。具体的な到達目標は次の通りである。			
(1) 学校教育における特別活動の意義・目標及び内容について説明することができる。			
(2) 小学校での学級活動・クラブ活動・児童会活動・学校行事、中学校での学級活動・生徒会活動・学校行事における指導・支援の留意点について説明することができる。			
(3) 特別活動における具体的な指導・支援のあり方について自分なりに工夫することができる。			
授業の概要			
本授業では、学校教育における特別活動の意義や目標、各教科等との関係について扱い、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な基礎的知識を広げる。さらに、小学校での学級活動・クラブ活動・児童会活動・学校行事、中学校での学級活動・生徒会活動・学校行事それぞれの特色について取り上げ、指導案作成と模擬授業を通じて特別活動の実践的指導力を養う。			
授業計画			
第1回：イントロダクションー特別活動とは何か			
第2回：特別活動の意義と目標			
第3回：特別活動の歴史的変遷			
第4回：特別活動の内容とその指導①ー小学校・中学校での学級活動の特質			
第5回：特別活動の内容とその指導②ー小学校での児童会活動、中学校での生徒会活動の特質			
第6回：特別活動の内容とその指導③ー小学校でのクラブ活動の特質			
第7回：特別活動の内容とその指導④ー小学校・中学校での学校行事の特質			
第8回：特別活動と他教科との関連性			
第9回：特別活動と道徳教育ならびに総合的な学習の時間			
第10回：特別活動とキャリア教育、特別支援教育			
第11回：特別活動の評価と改善活動			
第12回：模擬授業①ーグループAの授業研究と模擬授業			
第13回：模擬授業②ーグループBの授業研究と模擬授業			

第14回：模擬授業③—グループCの授業研究と模擬授業

第15回：模擬授業④—グループDの授業研究と模擬授業

定期試験は実施しない。

テキスト

小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月、文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月、文部科学省）、新しい教職教育講座 教職教育編⑨ 特別活動（中村豊・原清治編著、ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（50％）、模擬授業・指導案（20％）、小レポート（30％）

授業科目名： 教育方法・情報通信 技術活用論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 光成 研一郎 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
(1) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。			
(2) 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。			
(3) 情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。			
(4) 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。			
(5) 児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。			
授業の概要			
これからの社会を担う子どもたちの資質や能力を育成するために、発達段階や個性に応じた様々な教育方法や技術が求められる。具体的には授業の目標・内容・指導・評価などに関する理論的知識に裏打ちされた実践力が必要となる。また現代において、教師には情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方についての理解が求められている。本授業を通して、それらに対する理解を深めるとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
授業計画			
第1回：教育方法の基礎的理論と実践			
第2回：今求められる教育方法（社会を担うこどもたちの資質・能力の育成のために）			
第3回：授業・保育を構成する基礎的要件			
第4回：学習評価			
第5回：学習指導および生徒指導			
第6回：授業・保育を行う上での基礎的な技術			
第7回：学習指導案を作成するために			
第8回：情報通信技術の活用の意義			
第9回：情報通信技術活用のための理論			
第10回：情報通信技術を活用した学習指導（デジタル教材の作成・利用、遠隔・オンライン教育の			

意義や関連するシステムの使用法に関する理解を含む)

第11回：教育データの活用（教育情報セキュリティの理解、学習履歴（スタディ・ログ）などの活用、学習評価への活用を含む）

第12回：情報通信技術を活用した校務の推進（統合型校務支援システムの活用を含む）

第13回：情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する指導法

第14回：情報通信技術を活用した教育及び保育計画

第15回：情報通信技術を活用した教育及び保育実践 補足とまとめ

定期試験

テキスト

教育のアイデア（西本望・光成研一郎編、昭和堂）

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領等各学校種指導要領、生徒指導提要等

学生に対する評価

定期試験(50%)、平常点（ブリーフレポート、課題の提出状況等）（20%）

発表（模擬授業等）(10%)、その他（中間テスト等）(20%)

授業科目名： 生徒・進路指導論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中達也、徳永加代
				担当形態： オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 ・授業テーマ： 学校における教育活動全般にかかる生徒指導・進路指導及びキャリア教育の理論と方法を学び理解する。 ・到達目標： (1) 生徒指導/進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 (2) 全ての児童を対象とした学級・学年・学校における生徒指導/進路指導・キャリア教育のあり方を理解する。 (3) 児童の抱える主な生徒指導/進路指導・キャリア教育上の課題と、校内連携および外部機関等との連携を含む種々の対応について理解する。				
授業の概要 本授業は、生徒指導・進路指導及びキャリア教育のための知識や技法の習得だけではなく、生徒指導や進路指導及びキャリア教育の対象、意義、目的を追求する中で、教員を目指す受講者が、対話的な講義を中心に共に考え、語り合い、児童生徒に寄り添う支援者（教員）としてとして求められる資質・能力の育成を目指すものである。配布資料や時事の生徒指導に係る報道や進路指導及びキャリア教育に関する具体的な実践例をもとにした受講者同士の意見交流やグループ討議、毎時間提出する小レポートを活用した交流など、アクティブラーニングの手法を用いて授業を行う。				
授業計画 第1回：「オリエンテーション」：講義概要、講義通信、受講時の心得、成績評価について。 「生徒指導の意義と目的」：生徒指導に関する基本的な考え方やその目的、教育課程における生徒指導の位置付けを理解する。（担当：田中達也） 第2回：「教育課程と生徒指導」：各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解する。（担当：田中達也） 第3回：「生徒指導の体制と実際」：学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解する。また、児童生徒の心理と発達の特徴や児童生徒の資料とその収集の方法について学ぶ。（担当：田中達也） 第4回：「教育相談」：教育相談の意義や特質、課題、組織的な対応方法や生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違いを理解する。（担当：田中達也） 第5回：「集団における生徒指導の進め方」：学校全体ですべての児童生徒を対象とした指導を行うに当たっての組織的対応の在り方や一人一人の教員の役割、具体的な指導の方法や、基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解する。（担当：田中達也） 第6回：「個別の自由を抱える児童生徒への生徒指導の進め方」：児童生徒が抱える個別の課題（暴力行為・いじめ・不登校性、虐待など）ごとに、その課題に対する理解と対				

第7回：「生徒指導に関する法制度」：校則、体罰、懲戒等の生徒指導に関する問題を考え、それに関する主な法令の内容を理解する。（担当：田中達也） 第8回：「今日的課題とその対応」：インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の基本的な考え方や進め方の事例研究を通して、これからの生徒指導に求められるシチズンシップ（市民性教育）の実現に向けて考える。（担当：田中達也） 第9回：「進路指導・キャリア教育の意義と目的」：進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。（担当：徳永加代） 第10回：「キャリア教育の実際」：教育活動全般にわたるキャリア教育的視点（担当：徳永加代） 第11回：「進路指導・キャリア教育体制」：組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解する。（担当：徳永加代） 第12回：「職業体験」今後の人生にどう生かしていくのか。（担当：徳永加代） 第13回：「キャリア・ガイダンス」：職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解するとともに、全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解する。（担当：徳永加代） 第14回：「キャリア形成の視点にたった自己評価」：生涯に渡るキャリア形成の視点に立った自己評価であるキャリアパスポートの意義について学ぶ。（担当：徳永加代） 第15回：「キャリア・カウンセリング」：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。（担当：徳永加代）	応の基本的な考え方を理解するとともに、児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方について考える。（担当：田中達也）
定期試験 テキスト 特になし	
参考書・参考資料等	生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）、小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
学生に対する評価	定期試験（50%）、毎回の授業最後に提出する小レポート（50%）

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 菱田 準子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
(1) 教育相談とは何か。その意義と理論を理解する。			
(2) カウンセリング等学校心理臨床を含む、教育相談に必要な基礎的知識を理解する。			
(3) 教育相談における校内の協働や外部機関との連携の実際を理解する。			
(4) 「いじめ」「不登校」「校内暴力」などの問題に関してどのように理解し、取り組むのかを考える。			
授業の概要			
児童たちは学校内の人間関係の中で、自己理解を深めつつ社会性を育てている。そして教育相談とは、そんな彼ら彼女らの個性の伸長や人格の成長を支援するための教育活動である。この授業では、児童の各発達段階における心性や教育的課題を適切に理解し、具体的支援に必要な基礎的知識（外部相談機関におけるものとは異なる、学校で行われるカウンセリングの独自性、その理論と技法等を含む）を習得することを目指す。 本授業は、教育相談のための知識や技法の習得にとどまるものではない。そもそも教育相談とは、何のためなのか。教育相談の「意味」とは何なのか。教員を目指す者が、単なる知識や技法を超えて、それらに疑問を持ち続け、悩み続ける哲学的素養を身につけていく端緒を開くことを、この授業を通して試みていく。			
授業計画			
第1回：「初めに」教育相談とは何か 授業に関するオリエンテーション			
第2回：「教育相談研究の経過」我が国における教育相談の歴史的変遷			
第3回： ロジャーズ理論と学校現場への導入について			
第4回： 教育相談に用いられる心理療法			
第5回：「発達障がい」と発達について考える			
第6回： チーム学校（SC、SSCとの連携）			
第7回： 成長の芽をどうやって見つけるのか（傾聴と観察）			
第8回： 「いじめ」について考える			
第9回： 「不登校」について考える			

第10回：「校内暴力」について考える

第11回：「教員によるスクールカウンセリング」の理論と実際

第12回：「予防的・開発的心理教育プログラム①」の実際とグループワーク

第13回：「予防的・開発的心理教育プログラム②」の小グループでの提案授業の企画

第14回：「予防的・開発的心理教育プログラム③」提案授業の発表

第15回：「まとめ」教育相談における課題のまとめおよび質疑応答等

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

人間の潜在力—個人尊重のアプローチ(カール・ロジャーズ、畠瀬稔・畠瀬直子訳、創元社)

学校教育相談理論化の試み(大野精一、ほんの森出版)

学校教育相談具体化の試み(大野精一、ほんの森出版)

それでも人生にイエスと言う(V・E・フランクル、山田邦男・松田美佳訳、春秋社)

生徒指導提要・在外教育施設安全対策資料【心のケア編】第3章スクールカウンセリング

学生に対する評価

各授業での提出物(50%)、小レポート(30%)、グループ作業での活動量(20%)

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (幼・小・中)		単位数：2単位		担当教員名 教科担当：牛頭哲宏、山下敦子 教職担当：中西利恵、京極重智、 柳原利佳子、深川 幹	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 80人(2クラスで実施)。6名の教員で担当する。各回の授業内容と方法に応じて受講生をグループに分割(1グループ13～14名)して行う。					
教員の連携・協力体制 教職に関する科目の専任教員6名を授業担当者とし、その他の教科に関する科目、及び教職に関する科目の担当教員と連携し、受講生の履修履歴を把握し適切な内容について協議を行う。 第5～9回のグループ活動においては、6名全員が専門性を活かし協力して指導にあたる。					
授業のテーマ及び到達目標 本授業は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され形成されているかを確認する。積み上げてきた履修カルテで教職課程の履修と修得状況を振り返り、自己課題の自覚化を図る。そして、教育対象者や協働者との対人関係力の形成や卒業後、教職に就くために不足している知識・技能を補い、その定着を図ることによって、教員としての職務を円滑に開始できるようにすることを目標とする。					
授業の概要 教職課程を締めくくる最終段階として位置づく実践的授業科目である。上記の目標を達成するために、本授業においては、教員として求められる「教職員としての使命感と責任感」の自己覚知を行い、「対人関係力」を伸長し、「実践的指導力」の向上させていくことを課題とする。さらには、教職に携わる者として「教育の専門家としての確かな力量」と「総合的な人間力」を伸長し続ける自覚をもつ。方法としては、これから実習等により現場を経験する2年生を対象に「教職」を伝えるプロジェクトを成功させ完了をめざした実践を行う。プロジェクトの各ミッションは、ICTを活用し遂行する。その他学内授業でも、グループ討議や模擬授業等を取り入れ、積極的にICTを活用する。さらに、神戸市教育委員会や本学附属幼稚園と連携し、学校現場の研修会等参加や見学を実施し、その成果を報告、討論する。					
授業計画 第1回：授業計画、各回の授業内容、インターンシップ実習の説明。履修カルテを活用し、履修履歴の再確認、不十分な点の分析と個別課題の設定。(担当：中西・柳原) 第2回：教職の構造(1) 教職の基礎(哲学対話の映像を活用し討論)(担当：京極) 第3回：教職の構造(2) 幼児児童生徒理解と学級経営(担当：山下・中西・深川) 第4回：教職の構造(3) 授業実践と学級経営(担当：山下・中西・深川) 第5回：「教職」を伝える(1) 教育実習等学校現場での経験及び4年間の学修成果をふまえ、学校種別に教員としての職務についてグループ別にテーマを設定しICTを活用して発表資料を作成。2年生対象にプレゼンテーション実施。テーマは、幼児児童生徒理解					

、学級経営の実際、模擬授業や模擬保育、教科・保育内容等の指導の実際、保護者や地域関係者との連携等（担当：全教員） 第6回：「教職」を伝える（2）各グループでICTを活用し発表資料の作成（担当：全教員） 第7回：「教職」を伝える（3）グループごとにICTを活用し発表（担当：全教員） 第8回：「教職」を伝える（4）ICTを活用し発表の評価をまとめ、各グループで課題を析出し改善（担当：全教員） 第9回：「教職」を伝える（5）2年生対象に教職を伝えるプレゼンテーションを実施（担当：全教員） 第10回：職場での人間関係（1）ロールプレイング（担当：牛頭・中西・深川） 第11回：職場での人間関係（2）グループ討議（担当：牛頭・中西・深川） 第12回：学校現場における見学・現地調査（担当：牛頭・山下） 第13回：学校現場における事例研究（担当：牛頭・山下） 第14回：学校現場における見学・現地調査・事例研究の報告と討論（担当：牛頭・山下） 第15回：授業のまとめと自己評価。履修カルテを活用した総合的な課題達成度の確認（担当：中西・柳原）
テキスト なし
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
学生に対する評価 授業後の振り返りレポート、課題設定に関するワークシート、発表資料及びプレゼンテーション内容、学校現場における事例研究・見学に関する報告等を評価対象とする。さらに、自己の学びの自覚と問題解決に向けての自己課題を捉える履修カルテの内容も評価する。 提出物（50%）、成果発表（40%）、履修カルテ（10%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。